

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 静岡市立久能こども園 (※正式名称を記載)

種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}

中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校

教員養成大学 専修学校、各種学校

特別支援学校

その他 (例: 小中高一貫 幼保連携型認定こども園)

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒 422-8014

静岡県静岡市駿河区青沢240番地

E-mail kunoukodomocity.lg.jp

Website _____

幼児児童生徒数 男子 16 名 女子 6 名 合計 22 名

幼児・児童・生徒の年齢 3歳～5歳

2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

※報告書提出時点～平成30年3月末までの活動は、予定(見込み)として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800字程度+活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項1-1、2-1に対応

本園は、29年度、「心豊かでたくましい子」を園教育・保育目標、「自分の思いや友達の思いを大切にできる子～伝える力・聴く力の育成～」として取り組んできた。その中でESDを人や物とのかかわりを主体的に学ぶ場として捉え、ESDの実践を通して地域への愛着心、人や栽培物への思いやり、コミュニケーション力の育成を目標とした。

具体的には、「久能山東照宮の梅を活用した、自然の営み・地域とのつながりを重視した保育」を柱に、①季節を感じる栽培活動、②東照宮とかかわる活動、③地域の人や身近な人とつながる活動を行った。

① 季節を感じる栽培活動

本園には地域の人のご厚意で貸していただいている「なかよし農園」という畑が園のすぐ前にあり、四季折々の野菜を育てている。子ども達が水やりや草取りをして、野菜を育てながら五感を通して匂いや色、形、伸びていく様などを発見したり、収穫したものを子ども達がクッキングして食べたりした。その中で、嫌いだったものを食べることができるようになったり、栽培物に感謝の

気持ちをもったりすることができるようになった。

② 東照宮とかかわる活動

2月には久能山東照宮の梅園に出かけ、梅の花の美しさ、香り等を楽しみ、5月になると梅摘みに行かせていただく。摘んだ梅は園に戻ると、へたをとり、塩もみをして樽につけこむ作業を行う。また、梅干しに入れる赤しそは、園の畑で栽培し、種まき、収穫も子どもたちと行っていく。赤しそはしそもみをした後、樽に追加してつけこみ、8月に職員が土用干しをして梅干しに完成。10月には梅干しを持って東照宮に奉納に出かける。奉納後、学芸員さんに東照宮の案内をしてもらう中で、東照宮の文化財の意味を覚えてもらう等の学びの場があった。

③ 地域とつながる活動

地域の高齢者にしそもみの先生になってもらい、園児たちは7月にしそもみを体験した。手触り、色、香りの変化を実感しながら、しそもみを行った。梅干しができると、しそもみ先生に渡しにいったり、地域の敬老会祖父母会で梅干しをプレゼントしたりして、高齢者の方達が喜んでくれることにも嬉しさを感じていた。また、あやとりやお手玉などを教えてもらい、親しみの気持ちにもつながっていった。



① の写真（野菜の収穫）



② の写真（東照宮の梅摘み）



③ の写真（東照宮にお礼）



④ の写真（しそ揉み先生）

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input checked="" type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input checked="" type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input checked="" type="checkbox"/> 5. その他(自由記述 保育時間)	

エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

・ 図鑑、絵本「くのうざんものがたり」

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

教育及び保育の全体構想にユネスコスクールとしての位置づけを入れて平成 29 年度は教育保育実践を積み重ねた。教育課程の中に、栽培活動や食育活動の年間計画を作成して、発達や時期に応じた実践ができるようにしていったり、園外保育の中に久能山東照宮への園外保育を位置づけている。また、ESDカレンダーを作成し、各分掌の年間計画をつなげながら、年間通じて、保育活動を総合的に行うことができるようにしている。また、各行事後や学期毎、年度末に反省を行い、次回に生かしている。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

平成 30 年度には全体構想をグランドデザインと改め、ユネスコスクールの位置づけを、更に明確にした。また、教育課程の中にも位置づけ、栽培活動や東照宮とのかかわりは全職員で継続していけるように、計画を作成している。職員が異動で入れ変わっても、継続していけるように、文書にて引き継ぎも行い、実践を積み重ねていけるようにしている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

内部評価は、各行事ごと、また、年度末に反省評価を実施、反省を次に生かしている

外部評価は、保護者アンケートを実施。学校評議員・評価委員から意見をいただき、学校評価書を作成しながら、外部の意見を反映させている。

成果・栽培物への愛着が育ち、食べる意欲につながった。

・文化財の意味や美しさに触れ、興味関心が育った。

・地域のお年寄りに親しみがわいた。

課題・栽培物の植え時を忘れずに、旬を捉えた活動が必要である。

・保育者自身が感性を磨き、子どもの思いに共感していきたい

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

活動の発信

- ・保護者会、祖父母会などで実践をパワーポイントで紹介
- ・ESDコンソーシアムで本園の実践を発表
- ・静岡市立こども園園長会で本園の実践を発表した

発信によって得られた効果

- ・保護者が園の保育に理解を示してくれた。
- ・他市町や他園に、実践を紹介でき、好評を得た。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)
(200字程度) ※チェック事項 2-3 に対応

静岡大学が主催のコンソーシアムに参加し、他市町や他の校種の実践に学んだり、本園の実践を発信できた。

遊びと生活展を静岡大学の協力のもと実施。静岡市内の一般の方たちにも実践を紹介できた。また、静岡新聞にその様子が掲載され、本園の製作物が記事にのった。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度) ※チェック事項 2-4 に対応

ここに関しては、まだ未実施です。

- ⑧ ユネスコス쿨の活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項2-5に対応

昨年度、静岡新聞で本園の梅摘みの様子などを記事にいただいた。今年度NHKの取材（畑の様子）があったため、ユネスコス쿨であることをアピールしたところ、平成30年度は梅仕事の様子取材に来てくれるということだった。本園は小規模園であり、園児数の減少も懸念されるため、本園が継続でき、保育活動も充実できるように報道機関へのアピールもしていきたい。

(3) 平成30年度の活動計画（200～400字程度）

- ① 栽培活動の充実
- ・収穫後、種を残し、それを次年度に植えていく活動の継続
 - ・時期を逃さずに、栽培計画にそって栽培し、食育活動も充実していく
 - ・地域へのおすそわけをすることで、つながりを深めていく。
- ② 東照宮とのかかわりの充実
- ・園外保育を重ねながら、学芸員さんの協力を求め、東照宮の建造物に込められた意味を対話的に学習していく。
 - ・梅園の梅から梅干しを作り、作る過程での五感を使っての学びを大切にしながらそれを奉納し、感謝の気持ちにつなげていく
- ③ 地域の人とのつながりを大切に活動
- ・梅干し作りの際、しそ揉み先生を地域のお年寄りに依頼し、やり方を学ぶ中で感謝の気持ちにつなげていく。
 - ・老人会や耕運機先生などの実践を積み重ね、親しみの気持ちにつなげていく。